２０１２年（平成２４）５月

カルメル
霊性センターニュース

2012年5月　　276号

目次

特集
教皇ベネディクト十六世の
265回目の一般謁見演説(1)　・1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・21

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・35

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・・46

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

特　集

教皇ベネディクト十六世の２６５回目の一般謁見演説（１）

「リジューの聖テレーズ」について

2011 年 4 月 6 日（水）午前 10 時 30 分から、サンピエトロ広場で、教皇ベネディクト十六世の 265 回目の一般謁見が行われました。この謁見の中で、教皇は、2011 年 2 月 2 日から開始した「教会博士」に関する連続講話の第 8 回として、「リジューの聖テレーズ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。（カトリック中央協議会　司教協議会秘書室研究企画訳）（2011.4.7）

※ 霊性センターニュース５月号～９月号に連載します。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。

今日はリジューの聖テレーズについてお話ししたいと思います。幼きイエスと尊い面影のテレーズとも呼ばれるこの聖女は、19 世紀末、わずか 24 年間をこの世で過ごしました。彼女はきわめて単純で隠れた生活を送りましたが、死んで、著作が刊行された後、もっとも有名で、人々から愛される聖人となりました。「小さいテレーズ」は、彼女に祈る単純な魂、小さな魂、貧しい魂、苦しむ魂を絶えず助け続けています。そればかりか、彼女はその深い霊的教えによって全教会を照らしました。そのため尊者教皇ヨハネ・パウロ二世は 1997 年、すでに 1939 年にピウス十一世が与えた宣教者の守護聖人という称号に加えて、教会博士の称号を彼女に与えようと望みました。わたしの敬愛する前任者は、彼女を「愛の知識の専門家（esperta della scientia amoris）」（使徒的書簡『新千年期の初めに』42）と呼びました。この「知識」は、信仰の真理全体が愛のうちに輝いているのを見いだします。

テレーズはこの「知識」をおもに『自叙伝』の中で表明しました。『自叙伝』は、彼女の死の翌年、『ある霊魂の物語』（Histoire d’ une âme）という標題で刊行されました。この書物はすぐに大変な成功を収めました。それは多くの言語に翻訳され、世界中に広まりました。わたしは皆様がこの小さいけれども偉大な宝を再発

見してくださるようお願いします。それは、福音を完全に生きた人による、福音の輝かしい注解書です。実際、『ある霊魂の物語』は驚くべき『愛の物語』です。この真実と単純さと新鮮さに満ちた物語を読む人は、心を捕らえられずにはいられません。しかし、幼年時代から死に至るまで、テレーズの全生涯を満たしたこの愛とは、いかなるものだったのでしょうか。親愛なる友人の皆様。この愛は、み顔をもっています。イエスという名をもっています。聖女は絶えずイエスについて語ります。それゆえ、テレーズの教えの中心に歩み入るために、その生涯の大いなる歩みを振り返りたいと思います。

テレーズは 1873 年 1 月 2 日、フランスのノルマンディー地方の町アランソンに生まれました。彼女は父ルイ・マルタン（Louis Martin 1823－1894 年）と母ゼリー・マルタン（Zélie Martin 1831－1877 年）の末娘でした。この模範的な夫婦また両親は、2008 年 10 月 19 日に一緒に列福されました。この両親には 9 人の子がいましたが、そのうち 4 人は夭逝しました。残った 5 人姉妹の全員が修道女になりました。テレーズは 4 歳のとき、母親の死によって深く傷つきました（『自叙伝』：Ms A, 13r）。その後、父は娘たちとともにリジューの町に移りました。聖女はこのリジューで全生涯を送ることになります。後に重い神経症にかかったテレーズは、神の恵みによっていやされます。彼女はこの恵みを「マリアさまのほほえみ」（同：29v-30v〔東京女子跣足カルメル会訳、伊従信子改訳、『幼いイエスの聖テレーズ自叙伝　その三つの原稿』ドン・ボスコ社、1996 年、102 頁〕）と呼びます。この後テレーズは初聖体を受けました。彼女はそれを深く味わい（同：35r）、聖体のイエスを自分の生涯の中心に置きました。

1886 年の「ご降誕祭の恵み」は大きな転換点となりました。テレーズはそれを「完全な回心」（同：44v-45r〔前掲邦訳、144 頁〕）と呼びます。実際、彼女は小児期の過敏症をまったくいやされ、「巨人の足どり」で歩き始めました。14 歳のとき、テレーズは深い信仰をもって十字架につけられたイエスにますます近づきました。そして、死刑の宣告を受けながら回心せずにいる犯罪者の絶望的に思われる状態を深刻に受け止めました（同：45v-46v）。聖女は述べます。「わたしはどんなことをしても、彼が地獄に行かないように願い、そのために考えつく手段は何でもみな用いました」（前掲邦訳、147 頁）。

（次号に続きます）

心 の 泉

第一巻
第二十三章　死を黙想する

３　一瞬一瞬を大切に

朝になれば、夕べは来ないと考えなさい。夕べになれば、あくる朝があると思ってはならない。いつも備えを忘れてはならない。死がいつ来ても、備えができているように生活しなさい。多くの人は、不意に死にあう。なぜなら、「人の子は思わぬ時に来る」（マタイ24・44、ルカ12・40）からである。この最後の時が来れば、あなたは過去の生活について、今までと異なる考えをもつようになり、不熱心でなおざりであったことを悔やむであろう。

４　健康と病気

つねに死への備えができている状態でありたいと、生きている間に努める人は、なんと幸せで賢明なのであろう。まったく世俗を軽蔑すること、徳に進もうと熱心に望むこと、規則を愛すること、苦行すること、すぐに従うこと、自分を捨てること、そして、キリストへの愛のためにあらゆる患難を忍ぶことは、よい死を迎えるという確かな根拠である。

健康である間は、よいことをたくさんおこなえるが、病気になれば何ができるかわからない。病気の時に善に進む者は少ない。さまざまな地の巡礼をして聖徳に達する者が少ないのと同様である。

神と親しく生きるために　－5－

生まれつきの素質が
　　何であろうと大して
　　重要ではない

わたしたちにとっての富
　　それは聖霊にとらえられ
　この愛の霊によって
　　変えられることである

～　尊者マリー・エウジェンヌ神父　ocd　～

マリー・エウジェンヌ神父は十四歳の頃、ある日石切り場で石を切っている人たちに出会いました。その時、少年アンリにはこの世で一番つらい仕事のように思えました。それでそのつらい仕事に挑戦してみようと思い、石を切る練習をしたということです。でも思うように出来ませんでした。石を切る前に道具を壊してしまったのです！　この体験で一つの事を学びました。あのように石を切ること、あるいは偉大な人物になること、いずれにしても、それが一体なんなのだろうか・・・所詮人間的レヴェルでの偉大さ、すばらしさ、困難への勝利なのだと。自分にとって、それは、どっちでもよいことなのだということをアンリはさとったということです。

十四歳の少年アンリのこの洞察は、晩年にはマリー・エウジェンヌ神父の次のような確信となっています。

生まれつきの素質が何であろうと大して重要ではない。
わたしたちにとっての富、それは霊にとらえられ、
この愛の霊によって変えられることである。

今年は五月二七日が聖霊降臨の祝日です。「父の約束されたものを待ちなさい」と言われたイエスに従って、弟子たちと祈りのうちに聖霊が降るのを待たれた聖母とともに、わたしたちも聖霊を待ち望みましょう。

聖霊来てください。わたしたちの心を訪れ、あなたの造られたこの心を、
天の恵みで満たしてください。

～　ベニ・レアトル聖霊に対する賛歌より～

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

エデンの園(15)

九里(くのり)　彰

市田ひろみさんの「エデンの園」の詩は、次のような言葉で終わっている。

海の色もかわってしまったのよ
波の音が潮の香りを
　　はこんで来たのに
今はもう何も聞こえないのよ
神は
　かしこくて　ひたすら
　生きた人間たちを
ふたたび　エデンの園に
　おまねきになったのよ

二〇三二年七月十日

制作年月日は、今から 20 年後の近未来のことになっていて、何とかの大予言ではないが、何となく現実感をもって迫ってくる。作者は服飾評論家として大活躍されているようであるが、どのような観点からこの詩を書かれたのか、お伺いしたいところである。

いずれにせよ、この詩の最後は、これまでと同じように破壊された自然を描写している。海の色が変わっているということは、汚染のためであろうか、あるいは生物が死に絶えたためであろうか。「波の音が潮の香りをはこんで来たのに」ということは、「今はもう」潮の香りもせず、また波の音も「聞こえない」死の海となっているということであろう。

森も死に、動物も死んでしまった。

人間はどうなっているのか。

結びは、「神は　かしこくて　ひたすら　生きた人間たちを　ふたたび　エデンの園に　おまねきになったのよ」となっている。人類の歴史が誕生する最初の所へ、生き残った人間たちをもどされたということであろうか。「かしこくて　ひたすら　生きた人間たち」と言う場合の「人間たち」とは、それまでの人類全体を指しているのであろうか。あるいは地球が破壊されていく中を「賢く、必死に生き抜いた」少数の人間たちという意味なのであろうか。この「かしこさ」の否定的な意味と肯定的な意味が問われる。

ヘンリ・ナーウェンの旅路の糧（154）

癒しをもたらす矛盾

私たちの人生における多くの矛盾――わが家にいるのに家がないかのように感じたり、忙しいのに退屈だと感じたり、人気があるのに孤独を感じたり、信者であるのに多くの疑いを感じたりすることなど――は、私たちのストレスとなり、いらいらさせ、やる気をなくさせたりします。それらの矛盾が、私たちが決して十全に存在していないと感じさせるのです。私たちに開かれているすべてのドアが、もっと多くのドアが閉じられているのを垣間見させるのです。

けれども別の答えがあります。これら同じ矛盾が、より深い憧れを私たちの内に引き起こすのです。それは、あらゆる望みのもとに息づく、神のみが満たすことができる一つの望みの成就に対する憧れです。矛盾がこのように理解されるならば、それらは、私たちを神へ向かうようにしてくれる軋轢を私たちの内に創り出すのです。

(0420)

私たちの問いに対する答え

私たちは、問うために沢山の時間と労力を費やします。それは価値あることでしょうか。なぜこの問いをするのかと、自分自身に問うことは、常に良いことです。私たちは有益な情報を得たいのか。だれかが悪いことを示したいのか。知識を獲得したいのか。知恵において成長したいのか。聖性への道を見出したいのか。

私たちが、問う前に、これらの問いについて考えるならば、問うために時間と労力をあまり使わないですむことに気づくことでしょう。たぶん私たちはすでに情報を得ているのです。たぶん私たちは、だれかが悪いということを示す必要はないのです。多くの問いに対して、私たちがただ注意深く自分の心に耳を澄ますならば、私たちはすでに答えを得ていることに気づくのかもしれません。

(0425)

（九里　彰訳）

「わたしはまことのぶどうの木」（ﾖﾊﾈ 15,1）。

「あなたはぶどうの木をエジプトから移し、多くの民を追い出して、これを植えられました」（詩編 80,9）。「万軍の神よ、立ち帰ってください。天から目を注いで御覧ください。このぶどうの木を顧みてください」（詩編 80,15）。旧約聖書では、神の民、イスラエルの民、支配階級も一般大衆も含めて民全体がぶどうの木と言われます。「わたしはぶどうの木のように美しく若枝を出し、花は栄光と富の実を結ぶ」（ｼﾗ 24,17）。しかし、そのぶどうの木は荒らされてしまった。外敵によってと言うよりは、イスラエルの民自身が神に、その契約に誠実でなかったために。また、それは、神に罰せられたために。「主はぶどうといちじくを打ち、国中の木を折られた」（ｲｻﾞﾔ 105,33）。このようなぶどうの木の現状を前にして、預言者は言います。「ぶどう畑のために、胸を打って嘆け、美しい畑、実り豊かであったぶどうの木のために」（ｲｻﾞﾔ 32, 12）と。

イエスは宣言されます。「わたしはまことのぶどうの木」。ここで、大切なのは、「まこと」と言う形容詞です。それは、旧約の出エジプトの出来事によってモーゼの手を通して異国の地から約束の地に移し植えられた、しかし、神の契約を守り切れなかった、実行する意欲さえをも喪失したあのぶどうの木、名前と特典のみを死守している見せ掛けのイスラエルの民に対して、十字架の木につけられるまで御父に誠実に生きるイエス、この方の「誠」を背景に持つ「まこと」なのです。愛と従順の内に十字架の木につけられた「ぶどうの木」であるからこそ、まことのぶどうの木なのです。そして、もう一つの「まこと」の次元が隠されています。それは、他のものをすべて排除、偽物として凌駕し、自分だけを主張する激しさです。イエスのみ、イエスだけが、神の手が植えられたぶどうの木、他のものは、すべて、同一レベルに立つことはできない、との宣言です。イエスのみが、御父の御旨、御父との契約を徹底的に守り、生きとおされたのです。復活は、イエスのこの自己主張への御父からの承諾、承認と言えるのです。「わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる」（ﾖﾊﾈ 10,17）。このまことのぶどうの木、イエスに連なり、その樹液によって清められ、養われることによってのみ、わたしたち自分自身で自分を救うことのできない人間は、救いの源泉、愛の御父に近づき、結ばれて、生きてゆくのです。ルカ渡辺幹夫

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊＊＊＊＊＊

復活節　第6　主日

ヨハネ　15：9−17

本日の福音に「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って、実を結ぶようにと私があなたがたを任命したのである。」というメッセージがあります。私たちをご自分のものにするという特別で普遍的な決意によってすでに選ばれています。神の愛が最初で、神を選ぶ力と自由を私たちが持つのは、神の愛が第一にあるからなのです。神はすでに私たちを選び、神は私たちを選んだことによって神の選びを宣言されました。全ての愛の源である御父から始まった愛の決定的瞬間です。イエスは「父が私を愛したように私もあなたたちを愛します。私の愛にとどまりなさい。」といわれます。神の選びを感謝することができるという希望が表されています。福音記者は私たちが愛の呼びかけに忠実にとどまることができるかどうかを求めています。神は私たちを愛するために選ばれました、そして神の愛の最高のお手本はイエスです。キリストの愛の最高の行いは自分の生命を他者のために捨てることであり、これより大きな愛はないと言われます。キリストの愛は十字架に、そして御父の愛は復活において彼を私たちに戻してくださいました。しかも、御父の愛は一時的や束の間のものではなく、永遠のものです。

イエスは友情や絆の意味を愛という言葉で明快に説明しています。この１節の前の文にぶどうの木と枝のたとえ話があります。ぶどうの枝は幹とつながっていることで栄養を受け、また一方幹はぶどう園丁の世話により栄養を受けているのです。同じように、私たちは私たちの主であるイエスを通して源泉である神からの愛を経験します。しかし私たちはこの絆を保たなければなりませんし、イエスご自身が御父を保ち続けたように掟を守らなければなりません。これらはモイゼの十戒以上のものです、「これが私の掟です、私があなたたちを愛したようにお互いに愛しあいなさい。」ここに具体的で、目に見える、触れることができる愛のお手本が与えられています、このお手本はイエスです。この掟が神について言っているのではないということに注目するのは重要です。兄弟姉妹への愛を含まない神への愛はありませんし、同時に兄弟姉妹への全ての真の愛は究極的に神へ向かうものであるということを意味しています。私たちが隣人を愛さないならば神を愛しているとはいえませんし、隣人に対する愛による全ての行為において私たちは神を愛するのです、とヨハネははっきり述べています。

更にイエスはいわれます、「私が命じることをおこなえば、あなたたちは私の友人です。」「私はあなたたちの友です。あなたたちを助け、完全な永遠の喜びへの道を示します。」イエスは弟子たちの足を洗い、愛の表現は奉仕にあることを示しています。イエスは御父から聞いた全てのことを私たちに知らせてくださっています。イエスにおいて完成された復活を通して、神は私たちに無限に与えてくださいました。イエスは私たちがイエスを選んだのではないことを思い出させます。イエスが私たちを選んだのであり、御父のために実を結びに行くように私たちを任命したのです。私たちは神に向かって進む能力を持っていません。私たちがイエスに引かれるのは、御父の恵みによるのです。この節で「任命する」と訳されているギリシャ語は「誰かをある立場におく」という意味です。イエスは私たちを選び、御父のために実を結ぶために「キリスト者」としての立場に私たちをおかれたのです。神はご自分のために実を結ぶように期待されているのです。*(Sr. Paulina)*

主の昇天　マルコ16,15-20

「主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた」(マルコ16,19)。

今日、わたしたちは、主の御昇天を祝います。主イエスは、この地上の生活、身体と精神のすべての次元での生活の中で、闇の世界との戦いに挑戦し、勝利を得られました、しかも、わたしたちと同じ罪に支配され、罪に傾斜している身体を持ってでした。これは、まさに、聖パウロが「罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです」(ローマ8,3)と書いているところです。

わたしたちが毎日体験する現実の身体は、自己保存の本能、他人を押しのけてでも自分の欲望を満たすことに傾いた罪深い肉の姿ですが、神の御手から創造されたままの純真な身体は、そうではありませんでした。多くの人々と、兄弟的愛の交わり、出会いを結ぶ接点、愛を実際に生き、現実的、具体的なものとする窓口でした。神の御子が受肉によって身体を受けたのも、この神のご計画の中での身体を回復するためであったと言えます。それで、わたしたちと同じ体を持って、十字架の死にいたるまで御父に従うものとなられました。つまり、御父のこの御計画を余すところなく実現するものとなられたのです。御昇天は、御父がイエスの体と精神に生きた生涯のすべてを承認し、これこそ「わたしの愛する子」と宣言されておられる最高の承認に他なりません。御父のわたしたち人類へのご計画が成就され、イエスがこの成就への道をすべての人ために開き、聖霊は力強くわたしたち一人一人をこの歩みで支えていてくださるのです。

さて、今日の福音を見ますと、一つの三角形が現れていることに気付きます。この三角形の頂点は、「主イエスは、・・・天にあげられ、神の右の座に着かれた」にあります。三角形の二つの横の辺にあたるものは、福音の前半と後半の部分です。最初の部分では、「全世界に言って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」とのイエスの命令、派遣です。後半の部分は、この命令の弟子たちの実行です。「弟子たちは出かけていって、至るとこで宣教した」。そして、三角形の底辺ですべてを支えているのは、「主は彼らと共に働き」です。弟子たち、そして、わたしたちも、この三角形の中で今日の身体の中での命を生きています。　　ルカ　渡辺幹夫

聖霊降臨の祭日　（ヨハネ　20：19—23）

聖霊降臨の祭日は聖週間以来わたしたちが祝い、記念してきた素晴らしい超自然的神秘を締めくくるものです；イエスの受難、死、復活、昇天、は最高潮に達して父と子との霊が弟子たちの上に送られるのです。福音は主の復活の直後に起きたことを語っています。イエスは弟子たちのところに来られ、彼らに聖霊をお与えになります。

“週の初めの日”、それは聖金曜日の後の日曜日、主の復活の日、イエスの弟子たちは恐れて鍵をかけ隠れていました。イエスと親しくしていたので、捕えられることやもっとひどい目に会うかと恐れていたのです。突然、イエスが真ん中にお立ちになり、“シャローム”と挨拶なさいます。“あなたがたに平和があるように”。イエスと共にいるとき、わたしたちはイエスだけがお与えになる平和を経験します。たちまち、恐れおののいていた弟子たちは喜びで満たされます、イエスは彼らに平和と喜びをもたらされました。この時、弟子たちにイエスの使命が与えられます、神の国を宣言する使命です。“父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。”こう言ってイエスは彼らに息を吹きかけられます。このことは神が、土の塵で創られた最初の人の鼻に息を吹き入れられたことを思い起こさせます。今、ここでも新しい創造が行われます、使徒パウロが手紙で言っているように弟子たちは‘新しい人—、イエスの霊で満たされ、イエスの働きを続ける権限を委ねられた人—に創り変えられます。彼らにはまた人を赦し和解させる権限とその方法も与えられます。これは彼らにとって易しい仕事ではありません。イエスは言われます。“聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せばその罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。”和解はあらゆる形の分裂による傷を癒すことを意味します。これは神の国の働きです。

わたしたちの生活において、この霊の成せる業の結果を見てみましょう。これについては、第二朗読の使徒パウロのＩコリント人への手紙によく書かれています。もしわたしたちにイエスの霊が無ければわたしたちはイエスを“主”と呼ぶことさえ出来ないと言っています。同時にこの霊は共同体の各メンバーが頂いている特別な賜物の源です。賜物にはいろいろありますが、この賜物は個人的な使用のためにではなく、共同体の奉仕のために使われなければならないということは大切です。同時にわたしたちは思い起こします、“一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシャ人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらった”ことを。霊は真の自由と解放の道です。最後に霊はわたしたちをキリストの共通の相続人にします、キリストと共に栄光を受けるためにキリストと共に苦しむ相続人とします。聖パウロは続けて聖霊の結ぶ実を明らかにします—愛、喜び、平和、忍耐、親切、寛容、誠実、温和、自制などです

聖霊は賛美されますように！イエスと御父は賛美されますように！イエスの弟子たちが聖霊に満たされたように、わたしたちもこれらの霊の賜物によって祝福され、聖霊に満たしていただけますように！

(Sr. Paulina)

待つ　　石原淳子

「今年は春一番が吹かずじまい」というニュースにびっくりしました。

春の到来を告げる使者のように思いこみ、待ちわびるものとしてしかるべきだったので、そんなことがあるのだろうかと虚をつかれる感じでした。

もっとも、春一番とは春に吹く一番初めの強い南風のことという簡単なものではなかったようで、実のところは、気象庁が定めたいくつかの条件を満たさなければならないのだといいます。　今年はこの条件を満たす南風が 12 年ぶりに記録されなかったということでしたが、使者見えずとも春は違わず到来しました。

確かにどこか拍子抜けの感がしないでもない春到来ですが、冬のあいだ縮めていた身体をゆるめ、思い切りのびをする気分は待ちに待っていたものです。

豊かな四季に恵まれる私たちは、季節の移り変わりを繊細な感覚でていねいに捉えて愛でますが、春はやはり誰にとっても待たれるものの最たるものであるでしょう。

「はーるよこい　はーるよこい」と始まるやや昔の童謡があります。「歩きはじめたみよちゃんが　赤いはなおのじょじょ履いて　おんもへでたいと待っている」と明るい外への期待を歌いますが、私は意識せずしてよくこの歌を機嫌顔でくちずさんでいます。

しかし、待つとはこのような期待にわくわくするものだけではありません。

今朝のテレビドラマでも、終戦になって婚約者が戦地から帰ってくるはずだと、うれしさに小躍りしつつ待っているところに、戦死の報せが届くという痛ましい場面を見たところです。

よろこび期待が無惨に裏切られ、身も心も打ちのめされ打ち砕かれる事態を、時に迎えなければならないことを、私たち一人ひとりが深く知っています。

待っていたもの、私のところにやってきたもの、それがたとえ意に染まぬものであったとしても、たとえ如何なるものであろうとも、この身に受け容れて生きるしか手立てはないのだということを、私たちは深く知っています。

ずいぶんと若い頃、「待つ」というひとつのことを教えられて、いつしか白髪の身となった、という意味の短歌に心を留めました。

歌そのものを、残念ながら正確に思いだすことができないのですが、今もな

お私の心に刻まれています。
私自身の 75 年の年月も、ふり返れば相応の山あり谷ありであるのですが、一面では「待つ」ことで綴られてきたのではないかと思えています。

「待つ」それは、知っていること、知らないこと、わかっていること、わからないこと、予期すること、予期しないこと、すべてに向かってわが身を解き放って手を広げていることといえないでしょうか。
無防備といえる純真であり、頑といえる誠実であり、本能といえる信頼であり、そのなかに身を賭す態度であるといえないでしょうか。
言いかえるなら、あらゆるところに満ちている神の声を、今日、聴くことではないでしょうか。

春一番吹かずじまいのニュースは、思いの外に心の扉を強くたたいたようでした。　天候のこと、季節のことにとどまらず、内へと潜むことを促し、扉をあけることを促し、考え、思い、想うことを促しました。
待っていたこと、待つしかなかったこと、待つという意識すら持てずに長い時を孤独の極みにあったこと、うれしいこと、悲しいこと、たくさんのことが身の内をめぐりめぐりました。
そして今、深く思い認めています。
もはやそれほどに多くは残されていないこの世の生にあって、私はこれからもきっと「待つ」はずだと。

陽光を呼吸して、枝先からつつましく薄もも色にやわらぎ始め、あっという間に天空満杯となった桜の下を、春の情気に抱かれて歩きます。
来年は、春一番は吹くでしょうか。

「いつくしみ深い父よ・・・・　わたしたちの希望　救い主イエズスキリストが来られるのを待ち望んでいます」
「国と力と栄光は　限りなく　あなたのもの」

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

25. ロス・アンデスの聖テレサ（1900-1920）── その5

ロス・アンデスのテレサは、1900年7月13日にチリのサンティアゴに生まれ、イエス・マリアのみ心のホアナ・コンリケッタ・ヨゼフィナと名付けられた。両親は裕福な貴族階級に属し、6人の子に恵まれた。ホアナはその4番目の子供であり、家族からホアニタという愛称で呼ばれた。5歳の頃から、ホアナは、人々が神のことや宗教的な事がらについて話をしているのを好んで聴き、決して飽きることがなかった。乗馬を愛した彼女は容貌にも恵まれていたが、それは虚栄心のもととなり、他の欠点とともに、大変な努力を払って克服しなければならなかった。6歳の時から、毎日ミサに与かるようになり、「イエス様は、私の心を、ご自分のものとなさるために、お取りになりました」と言っていた。聖体拝領を熱く望んでいたが、10歳になるまで待たなければならず、これは彼女にとって浄化のときとなった。初聖体の前夜、家族のもとに行き、家族の心を傷つけたかもしれないすべてのことについて許しを願った。初聖体を受けた時、「イエスと私の霊魂は、本当に一つに溶け合いました」と語っている。その後も、ご聖体を拝領するたびに、「イエス様は私に長時間お話になりました」と記録している。聖母マリアに対する深い信心を持ち、ロザリオを毎日唱えていた。15歳の時から、死に至るまで、詳細な日記を書き残している。度々、重病を患ったが、喜びを失うことなく、いっそう真剣に信仰を生きた。日記からは、彼女が、自分の人生を苦しみと愛からなるものであると考えていたことが読み取れる。学業成績も秀でていたが、彼女が最も誇りにしていたのは「マリアの子ども」であることだった。音楽の才能にも恵まれ、ピアノやオルガンを弾き、美しい歌声の持ち主でもあった。15歳の時、貞潔の誓いを立て、カルメル会に入る決心をした。パーティーやダンスを好む一方で、貧しい人々に対しても、心遣いを忘れなかった。カルメル会の院長との文通によって霊的指導を受けながら入会の準備をし、1919年5月7日にロス・アンデスの修道院に入会、イエスのテレサという修道名で呼ばれるようになった。8日後、彼女は家族に「カルメルに来てから8日経ちました。天国のような8日間でした」と書き送っている。しかし、この天国は重病のしるしを帯びたものとなり、1920年の聖週間の間に、チフスを発症、その苦しみは最高潮に達した。病者の塗油の秘跡を受けた後、カルメル会の誓願を立てることを許され、1920年4月12日、主の御腕の中で、眠りについた。生前、彼女は書き残している。「死ぬということは、愛のうちに永遠に浸されることです。」

ロス・アンデスの聖テレサ
（修練女の白いベールをつけて）

—— 祈り ——

私の神よ、あなたはどなたで、私は何者であるのでしょうか。私は、あなたの御手によって造られた被造物です。無から取られ、塵によって造られた被造物です。けれども、まるで神のような霊魂をいただいています。知性を持った自由な霊魂、見えざる世界の栄光をあなたに帰すよう定められた霊魂を。私の神よ、私たちは、本当にみじめな者です。創造主であられるあなたに反逆するとは。私をお許しください！　私たちはあなたをお愛ししせず、あなたに背いているのですから。あなたが私たちに課せられた掟はただ一つであるのに、私たちはそれを果たしてはいません。たとえ全世界を手に入れたとしても、霊魂を失ってしまったら、何の益になるのでしょうか。富や名誉や栄誉や人間の愛情は、すべて過ぎ去るもの、終わりのあるものであるのに、それらが何だというのでしょうか。私の神、イエス・キリストの御血によって価値あるものとされた、私の不滅の霊魂と比較するとどうでしょうか。霊魂は、どれほど尊いものでなければならないことでしょう。悪魔は、霊魂を破滅させようと、いつもうかがっているのですから。自分の霊魂を救おうとするのでなければ、永遠の罪を負うことになるでしょう。ですから、私は自分の霊魂を救いたいと決意しているのです。

おお、私の神よ、何という恐ろしいことでしょう！　ほんのわずかでもあなたに背くくらいなら、むしろ千度の死を選ぶことでしょう。あなたは、私の父であり、友であり、崇むべき天配でいらっしゃるのですから。あなたは、しばしば、ただ一つの小罪のために、サラやモーセやダビデといった方々に罰をお与えになりました。それなのに、何千回もあなたに背いた私には、罰をお与えになりません。どうか、私をおゆるしください。

私たちが、いずれ裁きを受けることになるのは、次の三つのことについてです。あなたが私たちに与えてくださった祝福、私たちの罪、私たちの行いについて、その意向がどのようなものであったかによって、裁かれるのです。おお、私の神よ、あなたは私を祝福で満たしてくださったのに、私は聖人ではありません！　私をゆるし、これからは聖人になれるようにしてください。私の母であるマリア様、私を聖人にしてください！

* * * * * * * * * * *

この記事は、跣足カルメル在世会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL http://www.ignatius.com) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

（注）タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる（Ⅰ列 17:3-4）」ということばに由来しています。

（泰星カルメル会訳・編）

いのちの言葉　4月

わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。

（ヨハネ　１５・３）

この確固としたイエスの励ましの言葉を聞いた弟子たちは、どれほど心を躍らせたことでしょう。イエスがこれを私たちにも語っておられるとしたら、なんとすばらしいことでしょう！少しでもこの言葉にふさわしくいられるよう、考えてみましょう。

イエスはこのみ言葉を語る直前に、有名な「ぶどうの木と枝のたとえ」を話されました。イエスはまことのぶどうの木、御父はそれを栽培される方です。御父は、実を結ばない枝を切り捨てし、実を結ぶ枝は、さらに豊かな実を結ぶために、一つひとつ刈り込まれます。このように説明されてから、イエスは言われます。

わたしの話した言葉によって、
あなたがたは既に清くなっている。

「あなたがたは、既に清くなっている」と言われる、清さとはどのようなものでしょうか。それは、神の御前に立つために必要な魂の状態、聖なるものとの関係や出会いを妨げる障害物（罪など）がない状態と言えるでしょう。

この清さを得るには、天からの助けが必要です。すでに旧約時代から、人は自分の力だけでは神に近づくことができないという意識を持っており、神から心を清めていただき、新しい心を与えていただく必要があると思っていました。「神よ、私の内に清い心を創造してください」(*1)と美しい詩編の一節も語っています。

わたしの話した言葉によって、
あなたがたは既に清くなっている。

イエスによれば、清くいられる手段とは彼のみ言葉です。弟子たちはイエスのみ言葉を聞き、それに従うことによって、清められました。

実際、イエスの言葉は、人間の言葉とは違います。ご聖体の中にイエスが現存されるように、み言葉の中にもイエスご自身がおられます。み言葉を通じて、イエスは私たちの中に入って来られます。み言葉を受け入れ、実行することにより、私たちの心にはキリストが生まれ、育っていかれます。

教皇パウロ六世は言われました。「魂の中にイエスがいてくださるには、どうすればいいでしょうか。み言葉が伝えられると、神聖な考えが伝えられ、『言』（ルビ：ことば）、人となられた神の御子が、伝えられます。私たちがみ言葉を受け入れ、私たちの内でそれを生かす時、主は私たちの中で受肉されると断言できるでしょう。」(*2)

イエスの言葉はまた、信仰を持つ人の内にまかれた種にたとえられます。人に受け入れられ、その中に入ったみ言葉は、種のように芽を出し、育ち、実を結び、私たちをキリストに似たものに変えながら、「キリスト化」していきます。

聖霊によって人の内でこのように成長したみ言葉は、キリスト者を悪から遠ざける能力と力を備えています。人は自分の内にみ言葉を生かす限り、罪から自由になり、清くいられます。人が罪を犯すのは、真理に従うのをやめる時だけでしょう。

わたしの話した言葉によって、
あなたがたは既に清くなっている。

イエスのこの励ましの言葉に値するため、どのように生きたらよいでしょうか。

神のみ言葉を一つひとつ実践し、毎瞬間み言葉で自らを養い、私たちの生活が絶えず福音化されるようにすることです。これは、私たちがイエスと同じ考え、同じ思いを持つため、世でもう一人のイエスとして生きるためです。福音がもたらす神聖な清さや透明さを、悪と罪がはびこる社会に対して示すためです。

もし、このような思いを共にする人たちが周りにいるなら、今月は「相互愛の掟」を示すみ言葉の実践に、特に心を向けましょう。今月のいのちの言葉を記したヨハネによれば、キリストの言葉と新しい掟の間には深い関わりがあります。

ヨハネによると、相互愛を保ってみ言葉を生きるなら、人は清められ、成聖に向かい、罪を犯さず、実りを結び、神に近づいていきます。人は孤立しているなら、世の誘惑に抵抗し続けることはできませんが、相互愛の内には、真のキリスト者として生きるための健全な環境を見出せるでしょう。

キアラ・ルービック

＊1　詩編51・12参照
＊2　Insegnamenti di Paolo VI,V,Citta' del Vaticano 1967,p.936.

★ フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、1982年5月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

体験談

僕は中学3年生です。先月受験勉強で忙しい時期、僕の友だち4人とその家族が大きい交通事故に会いました。同乗していたお父さんと友達の一人が亡くなりました。そのことを考えるたびに胸が痛くなり悲しく思います。亡くなった友達は沖縄高専に推薦で内定していて、とても優しくて誰からも信頼されていた子でした。僕はなぜその子がこんな目に合わなければならないのかと思いました。
告別式から帰った日は受験勉強にも力が入らず、落ち込んでいました。

その日の夜、塾で嫌なことがありました。その時、相手を許そうと努力しました。家に帰ってから、僕が走りに行こうとしたら、弟が一緒に走りたいと言いました。本当はあまり連れて行きたくありませんでしたが、弟を愛するためにいいよと言いました。弟の速さに合わせて走りました。そして、僕のお小遣いでアイスやお菓子を買って一緒に食べました。弟はとても喜んでくれました。

どんな大変な時でも、愛することが大切だと実感しました。また、愛すれば、どんなことも乗り越えることが出来ると思いました。(AK-沖縄)

連絡先
フォコラーレ:03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:フォコラーレで検索
http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（58）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

神の母のフェルナンドと十字架のマリア(3)

入会について語りながら、彼女はこう言っています。「聖なる十字架のヨハネ修父は、私に修道服を授けましたが、姉妹たちは、彼への尊敬の念から私に“十字架の”をつけ、彼の名前で私を呼ぶことを許してくださるよう願いました。聖人は、「彼女が十字架の友であるならば、そうしましょう」と答えました。

彼女はまた聖人に誓願を立て、聖人は彼女にヴェールを授けました。

これら二つの物語から、聖人の二つの燃えるような明らかな信心が見出されます。神の母と十字架です。前者にしろ後者にしろ、それらへの信心は、彼の修道名からまた修道名によって、思い浮かべることができます。

音楽や食べ物

十字架の聖ヨハネの仲間の一人は、こう述べています。

「彼は、特に病人にとても深い愛情を持っていたので、負担をかえりみず、大変な心遣いをもって彼らの世話をし、彼らを楽しませようとしていました。彼自身が彼らを楽しませるために彼らのもとに行き、必要であれば、彼らの気分をやわらげるために、彼らと一緒に子供のように振る舞いました。宗教の事柄には非常に慎重であった彼も、病人を励ますことができるようであれば、音楽を聞かせたり、必要なものや心地よいものに事欠かないようにするのが好きでした。

病人たちが食欲不振であるのを見ると、どれだけの種類のシチューや、食欲をそそる食べ物を知っているかを思い起こさせました。彼らが好みの物をほのめかしたならば、食べるかどうか疑わしいにもかかわらず、それを手に入れようとし、また手に入れさせました。この心遣いは、コールスの修道者にも、平修士であろうと助修士であろうと、平等に示されました」。

跣足カルメル修道会HP（International）

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< Communications（時事通信）>>

サバティーナで行なわれたカミロ神父の葬儀
”カミロ神父は、燦然と輝く灯台でした。”

メキシコ発（2012年3月18日）

跣足カルメル修道会元総長、カミロ・マクシッセ神父の葬儀は、昨日、メキシコシティのラ・サバティーナにあるカルメル山の聖母教会でとり行われました。メキシコ管区の管区長エンリケ・カストロ神父が、葬儀ミサを司式し、カミロ神父の家族、カルメル会ファミリーの会員たち、他の多くの修道会・宣教会の代表者たちと信徒たちが参列しました。

カストロ神父は説教で、カミロ神父が福音の便りを地の果てにまでもたらした偉大な旅人であり、この度は父のふところに帰る最終的な旅になった述べ、次のように語りました。「カミロ神父は、常にキリストの教えに導かれ、その叡智と精神の明晰さと知性とで、男子カルメル、女子カルメル、数多くの修道会の修道者、信徒と、多くの人々を照らす燦然と輝く灯台でした」。

多くの世代にわたる修道者の教師であった「カミロ・マクシッセ神父は、いつも、各人が自分の召命に従って行くのを助けることに大変重きを置いていました。召命への忠実さを刷新するよう助けるために多くの書物を残すと同時に、信徒の召命を意義深い仕方で評価しました」とカストロ神父は語りました。

式辞の中で、カストロ神父は、カミロ神父の人生を飾る、人を楽しませるマナー、対話的な性格、柔和で素朴な人柄を想い起しました。「親愛なるカミロ神父の人生のすべては、跣足カルメル修道会と教会への贈りものでした。」と語りました。

終わりに、エンリケ・カストロ管区長は、カミロ・マクシッセ神父の生涯の偉大さを十分に語り尽くすことはできないことを述べ、参加者全員に、彼の著した沢山の書物を、今日のすべてのキリスト者のための遺産として読むように招きました。

『わがテレーズ　愛の成長』
重版のお知らせ

マリー・エウジェンヌ師が尊者に挙げられたのを機に

絶版となっていました『わがテレーズ』が重版されました！

マリー・エウジェンヌ 著
伊從　信子　訳
サンパウロ　出版　　１７３　ページ

現代社会は　神に飢え渇くものにとってはまさに水も食べ物もない荒野である。
それでも　神に向かう旅路を歩み続けなければならないとするならば、
どうしたらよいのだろう。
本書は、この重要な問いに応えてくれる。

「自分が無に過ぎないことを認めて、幼子のように、神のみ腕に自分を委ねさえすれば足りる」神への単純なまなざしを生きる、これならば信徒にも可能なことである。

～森　一弘　司教～
表紙のとびらより

カルメル会の企画案内

上野毛霊性センター　～'１３年３月

黙想企画　＊＊　聖テレジア修道院（黙想）　＊＊

１．一泊聖書深読　指導：新井延和神父

（毎回金曜日夕食～土曜日１６時）

２０１２年

６月２２日～　６月２３日

９月　７日～　９月　８日

１１月３０日～１２月　１日

２０１３年

３月　１日～　３月　２日

２．奉献生活者の為の黙想会

７月２６日（木）１８時～８月　４日（土）　福田正範神父

８月１６日（木）１８時～８月２５日（土）　福田正範神父

１２月２７日（木）１８時～２０１３年１月５日（土）　福田正範神父

３．木曜黙想会(毎回木曜日１０時～１６時)

年間テーマ　「信仰」

~~６月２１日　「信仰に生きる」~~　※都合により中止となりました。

９月　６日　「信仰の成熟」　渡辺幹夫神父

１１月２９日　「信仰とは？」　中川博道神父

４．金曜黙想会 カルメルの聖人（毎回金曜日１０時～１６時）

~~７月１３日　「ロス・アンデスの聖テレサ」~~　※都合により中止となりました。

１２月１４日　「十字架の聖ヨハネ」　中川博道神父

２０１３年

２月２２日　「カルメルの原始会則の霊性」　渡辺幹夫神父

５．青年黙想会(男女)　福田正範神父、古川利雅神父、神学生

４月２８日（土）１５時～４月３０日（月）　「希望に生きる」

１１月２３日（金）～１１月２５日（日）　「信仰に生きる」

６．召命黙想会(男女)　福田正範神父、古川利雅神父、神学生

７月１４日（土）１４時～１６日(月)　「愛に生きる」

７．祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１２年１２月２４日(月・振休)～２５日(火)《講話なし、夕食なし》

８．特別黙想会　　伊従信子（ノートル・ド・ヴィ）

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

５月１８日（金）２０時～２０日（日）１６時　　信仰の年にあたって（Ⅰ）

１０月１９日（金）２０時～２１日（日）１６時　　信仰の年にあたって（Ⅱ）

９．聖週間前の黙想会（２０１３年）　　福田正範神父

※注）２０１３年

３月１７日（日）１８時～３月１９日（火）１６時　過ぎ越しの子羊・キリスト

電話でのお問い合わせは午前９時から午後４時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんのでなるべくFAX・はがき・Ｅメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03―5706―7355
FAX　03―3704―1764
e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会　≪わたしは神をみたい≫

さらに　深く信じさせてください

２０１２年５月１８日（金）20時～２０日（日）15時

「信仰年」を迎えるにあたり、

日々の生活のなかで復活されたキリストと出会うために

しばらく神のみ前に　静かなひとときを過ごしてみませんか？

「信仰の門」は
常にわたしたちに開かれています。

神のことばが述べ伝えられ、
わたしたちを造り変える恵みによって
心が形づくられるとき
わたしたちはこの門を通ることができます。

この門に入るとは、
生涯にわたって続く旅に出発することです

教皇ベネディクト十六世
「ポルタ・フィデイ」

- 指　導：　伊従　信子　（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品：　新約聖書、筆記用具、パジャマ
- 参加費：　￥１２０００
- 場　所：　カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
  158－0093　東京都世田谷区上野毛２-14-25　TEL 03-5706-7355
- お申込み：ＦＡＸ：03-3704-1764　Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
  または、ハガキにてお申込み下さい。

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。　皆様のご参加をお待ちしています。

＊＊＊＊＊

＊　日時：2012年6月22日（金）18時～23日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意下さい）

＊　場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

＊　指導：新井延和師（カルメル会司祭）

＊　会費：￥7000

＊　持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著　￥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。

お問合せ・お申込は、TEL．FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093　世田谷区上野毛　2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
Tel.03－5706－7355
Fax.03－3704－1764

講座のご案内

■場所： カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当： 中川博道 （カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください

カルメルの霊性に親しむ

朝のクラス・火曜日 ≪10:30～12:00≫	夜のクラス・金曜日 ≪19:15～20:45≫
5月15日	5月18日
6月12日	6月15日
7月10日	7月13日
10月16日	10月19日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日 ≪10:30～12:00≫	夜のクラス・金曜日 ≪19:15～20:45≫
5月29日	6月 1日
6月26日	6月29日
9月25日	9月28日
10月30日	11月 2日

キリスト教の基本を学ぶ

―洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に―

いずれも 金曜日

朝のクラス≪10:30～12:00≫ 夜のクラス≪19:30～21:00≫

2	5月11日	「天地創造の物語を読む」
3	5月25日	「あなたは誰？」（1）
4	6月 8日	「あなたは誰？」（2）
5	6月22日	「人間の問題性」（1）
6	7月 6日	「人間の問題性」（2）
7	7月20日	「信仰を生きるとは？」
8	9月 7日	「人間の問題性に関わる神」

お問合せ:carmel-reisei@hotmail.co.jp

カルメル会出版物のご案内

「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳

「創立史」
イエズスの聖テレジア著

「霊魂の城」
イエズスの聖テレジア著

「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎　訳

●お問合せは下記まで
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355　FAX 03-3704-1764
E-mail：mokusou@carmel-monastery.jp

２０１２年　黙想会案内　（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】1泊2日（午後5時～午後4時）

5月12日（土）～13日（日）聖母の愛　新井延和神父
7月 7日（土）～ 8日（日）聖霊の体験　今泉健神父
9月 1日（土）～ 2日（日）神の国の訪れ　松田浩一神父
11月24日（土）～25日（日）黙示録　新井延和神父

【聖書深読黙想会】

・１日（午前10時～午後4時）

4月28日（土）新井延和神父
6月30日（土）新井延和神父
10月 6日（土）新井延和神父
12月22日（土）新井延和神父

・水曜の黙想（午前10時～午後4時）

5月30日（水）マリアとヨゼフ　新井延和神父
6月20日（水）キリスト教信仰　松田浩一神父
7月25日（水）真理　新井延和神父
9月 5日（水）テレーズと共に　今泉健神父
10月17日（水）終生おとめ聖マリア　松田浩一神父
11月14日（水）キリストの第二の到来　今泉健神父
12月12日（水）受肉　新井延和神父

・待降節の黙想（午後５時～午後４時）

12月1日（土）～12月2日（日）今泉健神父 肉となったみことば

・聖テレーズの黙想（午後５時～午後４時）

9月30日（日）～10月1日（月）　伊従信子師

【キリスト教霊的同伴】（午後 ８時～午後 ３時）限定１０人

5月2日（水）～5月6日（日）松田浩一神父

カルメル青年黙想会（午後５時～午後４時）

4月28日（土）～ 4月30日（月）カルメル会士 観想者イエス。キリストに従う
11月10日（土）～11月11日（日）カルメル会士 観想者聖マリアに従う

【一般のためのカルメルの霊性入門】（午後５時～午後４時）

10月14日（日）～10月15日（月）松田浩一神父

イエスの聖テレサの霊魂の城の導入

奉献生活者の黙想（午後５時～午前９時）

8月 2日(木)～8月11日(土)松田浩一神父

8月16日(木)～8月25日(土)今泉健神父

12月27日(木)～1月 5日(土)新井延和神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１時

12月24日(月）～12月25日（火）[講話なし、各食事つき]

講座　『テレジアは現代に何を語るか』

場所：　京都カテドラル横の教区事務局６Ｆホール

５月１９日（土）午後２時半～

新井延和神父　『自叙伝』による「テレジアの涙」

６月１６日（土）午後２時半～

松田浩一神父　『創立史』にみる信仰の歩み

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会,個人黙想も歓迎いたします。－

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Ｅメールで お名前と連絡先を御記入の上、 お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016 ,　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人（働いている人）のための霊的同伴』
―日常のキリスト教霊性を求めて―

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴（スピリチュアル・コーチング）**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（**霊的理解**）を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴（一人 30 分）**を行います。
- メソードの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】　6 人

【開催日】

① 2012年　1月13日（金）～14日（土）
② 2012年　2月10日（金）～11日（土）
③ 2012年　3月16日（金）～17日（土）
④ 2012年　4月13日（金）～14日（土）
⑤ 2012年　6月 8日（金）～ 9日（土）
⑥ 2012年　7月13日（金）～14日（土）
⑦ 2012年　9月 7日（金）～ 8日（土）
⑧ 2012年　10月12日（金）～13日（土）
⑨ 2012年　11月 9日（金）～10日（土）
⑩ 2013年　1月25日（金）～26日（土）
⑪ 2013年　2月 8日（金）～ 9日（土）
⑫ 2013年　3月 8日（金）～ 9日（土）

（毎回金曜日　20 時（夕食なし）～土曜日 15 時）

【参加費】　各回 5，500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父（カルメル会士）

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へ FAX、はがき、E メールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39－12
カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
Tel　0774－32－7016、Fax　0774－32－7457
E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」
～都会の中の一日静修～（２０１２）

「「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」（ヨハネ 12-21）。この願いは、（中略）大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にでなくとも、キリストについて「語ってほしい」だけではなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を観想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。（教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」p. 22）

第１回	１月9日（月・祝）	キリストの御顔の観想と宣教(全体の導入)	中川博道神父　（上野毛修道院）
第2回	2月　4日（土）	苦しみとイエスに出あうこと	福田正範神父　（上野毛修道院）
第3回	3月31日（土）	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父　（宇治修道院）
第4回	4月14日（土）	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父　（宇治修道院）
第5回	5月26日（土）	聖霊が働く	新井延和神父　（宇治修道院）
第6回	6月16日（土）	三位一体のエリザベットと宣教	九里彰神父　（本部修道院）
第7回	7月　7日（土）	聖体と宣教：ヘルマン・コーヘン	古川利雅神父　（上野毛修道院）
第8回	9月22日（土・祝）	マリー・エウジェニ又師、人々を神への親しさへと導く	Sr.伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）
第9回	10月20日（土）	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Srパウリナ（宣教カルメル修院）
第10回	11月23日(金・祝)	十字架の聖ヨハネと宣教	九里彰神父　（本部修道院）

＊　時間　AM10:00～PM4：00
＊　場所　カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分　＊聖テレジア幼稚園隣接
＊　参加費　1,000円
＊　持ってくるもの　聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
＊　定員　約30名
＊　プログラム　１０：００～　祈り・導入・黙想
１０：３０～　講話（１）
黙想・赦しの秘跡または面接
１１：５０～　昼の祈り・お告げの祈り
１２：１５～　昼食
１２：５０～　黙想・赦しの秘跡または面接
１３：３０～　講話（２）
１４：４５～　ミサ
１５：３０～　茶話会・分かち合い
１６：００～　終了予定

☞　申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、（所属教会）を記載の上、開催日の３日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆　名古屋カルメル霊性センター
〒456—0062　名古屋市熱田区大宝4—5—17　カルメル会日比野修道院　FAX 052-671-1825
—日静修連絡係　〒465—0058　名古屋市名東区貴船3—2115　小林　厚・晃子
TEL・FAX 052-701-3685

２０１２年度名古屋聖書深読会

第１回　　４月３０日（月・祝）　　新井延和神父（宇治修道院）

第２回　１０月２７日（土）　　新井延和神父（宇治修道院）

○　時間　午前１０時～午後４時

○　場所　カトリック日比野教会
　　地下鉄名城線日比野下車、徒歩約５分　＊聖テレジア幼稚園隣接

○　参加費　￥１０００

○　持ち物　聖書・筆記用具・ノート・昼食等

＊　毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

＊　申し込みは、開催日の３日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

＊　対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞　申し込み先　　名古屋カルメル霊性センター
〒456-0062　名古屋市熱田区大宝４－５－１７
カルメル会日比野修道院
FAX０５２－６７１－１８２５

☆連絡係
〒465-0058　名古屋市名東区貴船３－２１１５
小　林　　厚・晃　子
TEL/FAX０５２－７０１－３６８５

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30～16:30 の予定で行います。

ご自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき

(来る時間も帰る時間も自由)、霊的にだけではなく

心身ともにリフレッシュできる時間としてご利用下さい。

日時　毎月第3土曜日 13:30～16:30

場所　三馬教会(石川県金沢市)

プログラム

13:30～15min.　聖書朗読と短い講話

14:30～15min.　ベネディクション・聖体顕示

15:30～15min.　サルヴェレジナ・聖体拝領

16:30　終了

各合間の時間は各自自由に黙想しながら祈る時間です。

カルメル霊性センター

〒921-8162　金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会三馬修道院　三上和久神父

TEL 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

1　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
2　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：６ヶ月 18,900 円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は１６,９００円

講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒパウリーナまでご連絡下さい。

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒパウリーナ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
コングレガシオン・ド・ノートルダム　アソシエート
慈しみ深き会
ＣＷＣ（キリスト者婦人の集い）

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり 内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2012年予定

N１ 04/27（金）-5/03（木）滋賀唐崎・ノートルダム
K３ 06/02（土）-6/4（月）東京・小金井・聖霊会 ２泊３日
N２ 06/15（金）-6/21（木）滋賀唐崎・ノートルダム
P２ 07/20（金）-7/26（木）西宮・女子トラピスチヌ
N３ 09/20（金）-9/26（木）滋賀唐崎・ノートルダム
P３ 09/30（日）-10/06（土）西宮・女子トラピスチヌ
K４ 10/12（金）-10/18（木）東京・小金井・聖霊会
N４ 10/28（日）-11/3（土）滋賀唐崎・ノートルダム
K５ 12/01（金）-07/26（木）東京・小金井・聖霊会

2013年予定

K５ 12/01（金）-07/26（木）東京・小金井・聖霊会
K１ 1/26（土）-2/1（金）東京・小金井・聖霊会
M１ 2/24（日）-3/2（土）宝塚売布・女子御受難会

真命山　2012年 ― 祈りの集いのご案内

真命山の霊性

自然　神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで　祈り

静けさ　沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分かつ　交わり

御聖体、愛の秘跡

１月１２日	愛の秘蹟である御聖体
２月　９日	信仰の神秘
３月　８日	「過越」の子羊
４月１２日	教会を生み出す御聖体
５月１０日	御聖体とおとめマリア
６月１４日	キリストによって、キリストとともに、キリストの内に
７月１２日	御聖体に生かされて生きる
８月	休み
９月１３日	御聖体の典礼と美
１０月１１日	御聖体と福音の宣教
１１月　８日	御聖体礼拝
１２月１３日	終末の宴

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ　サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア　デ・ジョウルジ

申し込み先
865－0133
熊本県玉名郡和水町1391－7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
TEL　0968－85－3100
Fax　0968－85－3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

リーゼンフーバー講座・集いの案内　2012年

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー　以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。
夏学期: 近代前半の霊性と思想 (15世紀後半－17世紀)　05/12、05/19、05/26、06/02、06/16、06/30、07/07、07/14、07/28、09/01、09/08

●ミサ
水曜日 17時10分－18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、10月31日、1月2日は休み。

●黙想
・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分－20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はクルトゥルハイム聖堂。
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分－12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。
・水曜日 18時－18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、10月31日、1月2日は休み。
・通う霊操 8月18日(土)－8月26日(日)18時－20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い
・下記の土曜日 13時30分－16時 上智大学内SJハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月14日、5月12日、6月16日、7月7日、9月1日、10月6日、11月10日、12月1日、
2013年1月5日、2月2日、3月2日
・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分－16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙想会
6月9日(土)10時－10日(日)14時(東村山)、9月29日(土)10時－30日(日)14時(東村山)、
11月24日(土)10時－25日(日)14時(東村山)、
2013年2月16日(土)10時－17日(日)14時(東村山)。1泊6600円程度。
[関西] 10月27日(土)13時30分－28日(日)15時(宝塚)

●坐禅会
・月曜日　17時20分－20時10分
・木曜日　18時－20時30分
　上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

●坐禅接心
秋川神冥窟。1泊2400円(＋暖房費)程度。
4月28日(土)20時30分－5月5日(土)10時
6月22日(金)20時30分－24日(日)10時
8月6日(月)20時30分－12日(日)10時
9月14日(金)20時30分－17日(月)10時
10月31日(水)20時30分－11月4日(日)10時
宝塚市
4月21日(土)13時30分—22日(日)16時
7月30日(月)17時45分－8月5日(日)15時

●アガペ会
下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時－18時)。上智大学内SJハウス第5会議室
4月15日(日)、6月2日(土)、2013年1月26日(土)
2012年10月21日(日)の集いは13時から。岐部ホール4階404(予定)

●クリスマス
クリスマス会：12月15日(土)16時－20時30分。岐部ホール4階404(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ：12月23日(日)14時－上智大学内クルトゥルハイム聖堂(80人限定)。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座　2012年
日時　毎週金曜日
　　18時45分～20時30分

05/11：神認識の道― 理性と経験を通して
05/18：創造された世界― 人間存在の根拠と自然の意味
05/25：歴史と信仰― 神と人間との出会い
06/01：新約聖書の神理解― 主なる父
06/08：祈りによる神理解― 神の偉大さと近さ
06/09-10：●黙想会(東村山)
06/15：救い主の役割― 人類の待望
06/22：神の国― イエスの告げるメッセージ
06/29：イエスの生き方― 神に遣わされて人に仕える
07/06：イエスの人間関係― 罪人と弟子と共に
07/13：イエスは誰か― イエスの自己理解
07/20：最後の晩餐― 自分を与えるイエス
07/27：イエスの受難― その史実と意図
07/28：◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
08/03：○休み
08/10：○休み
08/17：イエスの死― その救済的意義/(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/18-26：●通う霊操(18時-20時45分)/(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/24：聖書のイエス像― ヨハネの見たイエス/(上智大学内クルトゥルハイム2階)

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座　2012年
日時　　第1・3・5火曜日
　　18時45分～20時30分

［人間］
05/01：○休み
05/15：救いの歴史―― 時間における意義

［神］
05/29：無限への問い―― 理性による神理解
06/05：世界の根源―― 創造的自由・進化・摂理
06/09-10：●黙想会(東村山)
06/19：人生のうちに働く超越―― 神経験の多様な形
07/03：「私は在る」―― 旧約における神の自己啓示と預言

［人間への神の関わり］
07/17：神の語りかけ――「契約」と「救い主」の待望
07/28：◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人限定)
08/07：○休み
08/21：○休み
08/18-26：●通う霊操(18時－20時45分、クルトゥルハイム2階)

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス

電話　03－3238－5124（直通）
　　－5111（伝言）
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

2012年

5月 26日（土）

講話　伊従信子・片山はるひ

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費　200円

参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177－0044
練馬区上石神井4－32－35
TEL（03）・3594・2247
Fax（03）・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com
ホームページ
http://www.ndv-jp.org/

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ（いのちの聖母会）は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

５月 連休の
黙想会

日時：５月４日（金）１０時から
６日（日）昼食まで

テーマ：「イエスからの呼びかけ」

指導：トマス・ヴァルキ師 イエスス会

場所：町田祈りの家（汚れなきマリア修道会）

対象：自分の道を探している
35 歳までの独身女性

費用：12,000 円

申し込み：マリアの御心会
TEL03-3351-0297　４月 15 日まで

働く人のための
祈りの集い
みことばの分ち合い

時間　19:00～20:30（第２水曜日）

2012年４月１１日　５月９日
６月１３日　７月１１日

軽食あり、自由献金

主催：マリアの御心会
ＪＲ「信濃町」下車徒歩３分
お問い合わせ　申し込み
TEL 03-3351-0297

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3－1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日 程：

A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
①11年12月27日（火）～12年1月 4日（水）
②12年 3月14日 （水）～ 3月 22日（木）
③8月15日 （水）～ 8月23日（木）
④10月 27 日（土） ～ 11月 4日（日）
⑤12月27日 （木）～13年1月 4日（金）

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）
【神との親しさの中で日常を生きるために】
① 2月 3日（金）～ 2月 5日（日）
② 4月27日（金） ～ 4月29日（日）
③ 5月 18日（金） ～ 5月20日（日）
④ 6月 15日（金）～ 6月 17日（日）
⑤ 7月 13 日(金) ～ 7月 15日（日）
⑥ 9月 21日(金) ～ 9月23日(日)
⑦ 11月23日（金） ～11月25日（日）

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

5月26日(土)～6月3日(日) 松田 浩一 師（カルメル会）

◎ 対 象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

【一日黙想会のご案内】

テーマ：つなぐ
指　導：幸田　和生　司教　（東京教区補佐司教）
日　時：５月２６日（土）１０：００～１６：００　受付　９：３０～
場　所：コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院
〒182-0034　調布市下石原 3-55-1
対　象：男女・年齢を問わず、どなたでもどうぞ。
会　費：２，０００円（お弁当代を含む）
申込み：５月１９日（土）まで。電話〔042-482-2012〕
FAX　〔042-482-2163〕
受付時間　午前９：００～午後６：００
定　員：８０名まで受付けます。
主　催：コングレガシオン・ド・ノートルダム　アソシエート

＊ 当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。北口を出て、線路沿いに西調布駅方面に歩く。立体交差の下をくぐり左折。踏切を渡って 200m 歩き、二つ目の信号の右手（鶴川街道沿い）マルガリタ幼稚園内。徒歩で２０分。タクシーで５分。

以上、どうぞよろしくお計らいくださいませ。

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－(第６回目）
『霊魂の城』第一の住居、第２章より

日時：５月１６日（水）１４：００～１６：００
場所：イグナチオ教会信徒会館（アルペホール）

九里彰神父

CWC（キリスト者婦人の集い）

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』
第１９章～第２０章

日時：５月１５日（火）１０：３０～１２：００
場所：真生会館

九里彰神父

※各黙想会内容･日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

「カルメル」
今日の霊性・春号
特集号

2012 春 No.344

カルメル 2011 特集号

「混沌の時代に生きる道を探して」

特集

● 目次 ●

荒れ野を行く道　中川博道　2
キリスト教の歴史から学ぶ
―怖い改めた信徒のエネルギーと教会の再生　川村信三　16
使徒職の現場から　釘宮禮子　29
神のいつくしみの中に生きる
イエスの聖テレサ　松田浩一　37
暗夜の中を歩む　十字架の聖ヨハネと共に　九里　彰　51

● 目次 ●

〈今年の特集　イエスの聖テレジア〉
わたしは神を見たい　伊従信子　3
現代における「従順」の意味　(1)
――聖テレジアの「創立者」を中心にして　九里　彰　10
カルメルの霊性の源流を探して　(7)
――その「会則」に見る生活　中川博道　16
修道院生活　春夏秋冬　(5)　高橋重幸　33
イエスのみこころに　ペトロ・アロイジオ　30
エディット・シュタインとともに霊性を生きる
――死と再生の霊性　(1)　須沢かおり　38
心の土壌を耕すために　(1)　中山眞里　44
愛に生きるということ　森　みさ　50
愛の断章　29　奥村一郎　56

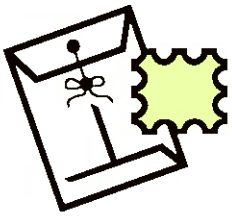
購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊４６０円です。

- 送付ご希望の方は、６００円【内訳　４６０円（＋送料１４０円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年５冊：春夏秋冬号・特集号【４６０円×５＝２，３００円】＋ 送料【７００円】計　３，０００円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。
ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６

霊性センターニュース
＊年間購読（郵送）のご案内＊



『霊性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを
受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から 12 月までとなります。
例：1 月申込の場合は、2 月号～12 月号（8 月号休刊除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250 円程度となります。

（※2013 年通年の年間購読に関しましては後日、別途
告知致します）

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等をご記入の上、
郵送か下記の e-mail でお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

《e-mail でのお申込み》
tokyo@carmel-monastery.jp

＊何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。
Tel: ０３－３７０４－２１７１
Fax: ０３－３７０４－１７６４

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０

加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

三月の末からほぼ三週間、ローマから総長顧問が来日し、男子カルメル会の各支部を視察して回った。総長顧問は、三月中旬、ローマを発ち、中国と韓国を回った後の来日。最初は宇治修道院、その後、上野毛修道院へ。ちょうど聖週間にぶつかり、上野毛で復活祭を迎え、その後、名古屋の日比野修道院、そこから車で北陸の金沢教会、三馬修道院、小松教会を回り、再び宇治にもどり、拡大顧問会が開かれ、翌々日、韓国へ旅立たれた。その後、タイやマレーシアを回り、5 月の末にローマへ戻るとのこと……、心身共に強靭でないと務まらない職務である。

司牧視察中は、観光もせず（金沢で一時間半ほど兼六園を散歩。後は離日前日、京都女子カルメル訪問後、背後にあるカトリック墓地を 20 分程度散策）、聖なる三日間のみ休息（この時は面談中止）。後は、訪問先の共同体の時間割に合わせて行動。ずっと随行した私も、何とか頭も体もおかしくならず（本人の自覚がないだけかもしれないが）、無罪放免となる。神に感謝！　（P.九里）

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪
「６月号」製本日 **５月２９日（火）**(注)第５火曜日 上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171